

熱海市土石流災害に係る静岡県精神保健福祉士協会の取り組み

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会 災害対策委員会
中村倫也（静岡県立こころの医療センター）

要旨

2021年7月に熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害では、発災当初よりメンタルヘルスケアの必要性が叫ばれ、静岡 DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team 災害派遣精神医療チーム）をはじめとした様々な災害支援活動に、多くの精神保健福祉士が参画することとなった。一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会（以下当協会）では、災害対策計画に則り、被害状況等の確認と支援の必要性について検討した。今回は行政機関等からの依頼を受け、当協会としては初めて組織的な支援活動を展開することとなり、その活動内容の報告と併せて今後の災害支援体制整備等について考察する。

1 発災～災害対策本部の設置

2021年7月3日（土）10:30頃、熱海市伊豆山あいぞめがわの逢初川で土石流が発生。同日昼頃の報道を受け、当協会内メーリングリストを中心とした情報収集を開始した。7月5日（月）平日を迎え、行政機関からも含めた情報を整理。被害は局所的であり、会員の被災や、福祉・医療機関に関する直接的な損害は最小限のものであると確認。翌6日には臨時三役会議（リモート）にて災害対策本部の設置は見送られることとなった。

その後、静岡 DPAT が展開するメンタルヘルスケア活動への協力について静岡県障害福祉課精神保健福祉室より打診があり、同月20日の臨時理事会（リモート）にて協力することを決定。同日、災害対策本部を設置することとなった。

2 静岡県によるメンタルヘルスケア活動

静岡 DPAT は発災当初より活動を展開。地元の保健師からのニーズを受け、避難者、消防隊員、遺体洗浄にあたる市職員へのメンタルヘルスケアなどが実施されてきた。

静岡 DPAT の活動終了に合わせて、静岡県公認心理師協会と共に、継続してフォローが必要な避難世帯への訪問と予約制の相談窓口の対応を実施することになった。

8月初めから週2回のペースで、延べ18名の会員が支援に参加。避難所となっている2カ所のホテルのうち、1カ所は8月6日をもって閉鎖。残る避難所には当初181名（8/2時点）が避難されており、公認心理師とペアで居室を訪

問し、生活の様子や心身の状況をうかがった。
〈活動実績〉

8月3日～8月31日 ※火曜と金曜に実施
被災者支援：24件、支援者支援：2件

3 熱海市生活再建ヒヤリング

熱海市災害ボランティアセンター／熱海市社会福祉協議会から、避難所の閉鎖に伴う今後の生活再建についての意向調査について協力依頼があり、静岡県社会福祉士会を中心に、静岡県医療ソーシャルワーカー協会、静岡県介護福祉士会等との全戸調査が行われた。当協会からは延べ10名の会員が参加した。

4 今後に向けて

いずれも避難所から仮設住宅等の次の住まいに移るフェーズでの活動となった。今後の見通しが立たないことの不安や悲しみ、怒りといった感情にどう寄り添うか、あらためてメンタルヘルスケアのあり方を考えさせられる機会となった。

当協会にとって、静岡県行政やソーシャルワーク三団体との災害支援の協働は初めてであり、声を掛け合うことから始まった組織的な支援を通して、平時のつながりや体制整備の重要性を学ぶこととなった。今回をきっかけに当協会は静岡 DPAT 連絡協議会のメンバーにもなり、今後はますます他団体との連携が必要になってくる。今後は災害福祉広域支援ネットワークや DWAT 等への参画なども視野に、機運を逃さず、組織内の体制整備に取り組んでいきたい。